

県央・林業部トピックス（9月号）

遠隔操作式下刈機械（ハイドロマチック・モア）の実演会

令和6年8月26日、大田市三瓶町において、江の川流域林業活性化センターの主催により遠隔操作式下刈機の実演会が開催されました。実演会には県内の森林組合、林業事業者、市町や県の職員など林業関係者52名の参加がありました。

県では原木生産の増産と、伐採跡地の更新に向けた植栽や下刈など保育を確実に行うことで循環型林業の推進を図っているところです。森林作業の現場では、生産性の向上が求められる一方で、夏場の下刈が過酷であることから、下刈作業の負荷軽減や安全性の確保が求められています。下刈においては、従来の人力による刈払機以外にも乗用式下刈機等様々なタイプがでてきていますが、傾斜、林床状況など現場条件によっては操作が困難な機械があります。この度の実演会は、国の支援を得て開発された遠隔操作式下刈機「ハイドロマチック・モア」（筑波重工株式会社製）を用いての開催となりました。

この機械の特徴としては、遠隔操作（リモコン）による高い安全性や、傾斜や根株などの障害物に対応するため車高調整の機能があることです。実演ではゴムクローラーの脱輪や電気系統のトラブルがあり途中中断もありましたが、実際の作業を見ることで、他機種との比較検討ができたのではないのでしょうか。

実演会に引き続き、実証試験（人力による刈払とハイドロチック・モアとの工程比較）が行われており、後日試験結果が提供されることになっています



刈幅の異なる2機を準備



開会・機械説明の状況



林地での実演状況
→35度程度の傾斜の刈払可能